

住民同士のふれあいの場に

栄町 連合町内会



▲敬老祝賀会を仮装姿で盛り上げた栄町カラオケクラブのみなさん

各 地域の連合会や町内会など、さまざまなコミュニティ活動が展開される中、栄町連合町内会（高崎恵三夫会長）では、ふれあいサロンを中心に、住民同士で楽しむことができる場づくりの企画・運営に取り組んでいます。

9月10日には、地域に居住する75歳以上の高齢者を招いてご長寿を祝う栄町敬老祝賀会が行われ、90人の対象者の内、43人が参加。今年で6回目とな



▲流しソーメンを楽しむ地域住民

る祝賀会では、少しでも参加者に楽しんでもらおうと、地域住民による手づくりの料理や栄町カラオケクラブによる余興が披露されました。

連合会では、この他に夏祭りをはじめ、パークゴルフ大会や一斉清掃など、これまで地域の人が築き上げてきたコミュニティ活動を継承し、住民同士が顔の見える地域づくりに取り組んでいます。昨年より始めた「流しソーメンを楽しむ集い」では、栄町コミュニティセンターの屋外に雨樋を20メートルつないだ手作りの装置を製作。子どもやお年寄りが交流しながら、流れてくるソーメンに舌鼓を打つなど、地域を盛り上げる新たな仕掛けづくりに挑戦しています。

連合会の庶務担当として各種事業の中心となって活躍している高野知一さんは、「いろ

いろな取り組みを通じて、地域の高齢者と子どもたち、さらに高齢者同士がふれあう場を企画しながら、楽しく参加できる環境を作っていきたい」と話し、特にふれあいサロンでは、必ずみんなで昼食を食べるスケジュールを組み、参加を促す工夫をしています。

高崎連合会長は、「連合会でできることは限られますが、何事も継続していくことが大切だと思っています。特に独居老人にとっては、集まってみんなと顔を合わせることを楽しみにしている人がたくさんいます」と、まずは外に出ていろいろな人とコミュニケーションを図ることが地域にとって大切なことと話します。

地域内における人口減少や高齢化が進む中、栄町連合町内会では、これからも地域ぐるみでみんなが参加できる活動を企画していきます。



▲栄町コミセンをサンタランドに衣替えし、地域の幼児や児童と高齢者が集まる中、栄町ふれあいサロンクリスマス会を開催